

# SANS FRONTIERES vol.2

**はじめに** 文科省の平成19年度学校基本調査によると医学部医学科に在籍する学生は46,767人であり、そのうち女子は15,267人と、約33%を占めるに至っています。(本校医歯薬コース卒業生で医学部に在籍している学生の7割は女性です。) 勿論、今後、医療の分野にとどまらず益々女性が様々な社会分野に進出し、その中心的役割を担っていくことになるでしょう。

こうした社会の状況は、戦後の民主化によって促進されてきたことはいまでもありませんが、戦前の家父長制、男尊女卑の風潮に屈せず、時代に先駆けて新たな道を切り開かれた勇氣ある先輩諸氏の労苦を出発点とするものであることを忘れてはなりません。

明治時代、西洋式の医療行政制度が導入された後、女性として初めて(1885年)医業開業試験に合格したのが荻野吟子(おぎのぎんこ)でした。その生涯は渡辺淳一氏著『花埋み』に詳しく描き出されていますが、私は彼女の生家跡が記念館として残されていることを知り、近代女性医学史の原点に触れるべく、同所を訪れてみました。

埼玉県熊谷市(日本最高気温の記録地)に降り立ったのは8月のとある猛暑の日でした。駅周辺には彼女の記念館に関する情報を表示したものは何一つありません。駅前の交番で、「物好きな人間もいるな。」という表情のお巡りさんから情報を仕入れ、3番バス乗り場から俵瀬行きのバスに乗ること約40分。ようやく終点のバス停に到着すると、そこは利根川の河川敷。次のバスが来るのは1時間半後。何も無いところに置いてきぼりにされたような不安を感じました。5メートル程の高さの堤にのぼって辺りを見回すと遙か彼方に数10戸の集落が見えます。大汗をかきながらその集落へたどり着いてみると「荻野」姓の表札のある家がいくつも見られます。その集落の中央、利根川の堤のすぐ近くに目指す記念館がありました…。

記念館の脇の小さな庭には彼女の胸像がひっそりとたたずんでいます。他に誰も訪れる者がいないのをよいことに私はじっくり彼女と話し、一緒に記念撮影もすることができました。彼女は現代の女性の自由な立場にちょっと羨望の念を抱きつつも、それ以上に、「女性は医者になっても皮膚科など救急の必要のない診療科にしか進まないとか、女性は結婚すれば医者をやめてしまうから戦力にならないなどと言って憚らない男性が大勢いる間は自分の闘いが終わることはない！」と、その細面の端正な顔立ちに似合わぬ強い口調で訴えかけてくるのです。

熊谷駅行きのバスに乗りこむや否や、雷鳴と共に大粒の雨が落ちてきました。

**医歯薬講演会** 1,2年生を対象に、現職の医師や医学部の先生を講師にお招きし、特別授業「医歯薬講座」を実施しており、今年度は現在まで2回行っています。

第1回医歯薬講演会 6月25日

講師:茨城県医師会副会長・小川南病院理事長 諸岡信裕先生  
演題:「医療の現状と医療従事者を志す上での心構え」



第2回医歯薬講演会 9月9日

講師:茨城県医師会理事 取手整形外科医院院長 松崎信夫先生

演題:「医師として最近考えること」

**文化祭** 本年度の文化祭において、医歯薬コースでは各クラスの発表とは別に1年生から3年生の109名全員でモザイクアートを作成しました。作品の上段を3年生、中段を2年生、下段を1年生が担当しました。3年生を中心とし迫力ある作品を作ることができました。しかし、1日目夜の強い雨、風のため残念ながら2日目朝に粉々に破け散ってしまいました。「来年も良い作品を作る！」この気持ちを胸に医歯薬コースの生徒達は燃えています。



**学習合宿** 平成20年8月18日～21日3泊4日の日程で、1・2年生が行方市のレイクエコーに学習合宿に行ってきました。

1年生は国語・数学・英語、2年生は数学・英語・化学の集中講義や自主学習で、1日合計10時間の学習を行いました。受験勉強を意識し、精神的にも大きく成長できた4日間になったようです。

**1日看護体験** 夏季休業中に希望者を対象に茨城県看護協会主催の1日看護体験が行われました。本校医歯薬コースの生徒達も各学年数名ずつ参加しました。その中には、看護師志望者はもちろんのこと、医療の現場を別の角度から見てみたいという思いから医師・薬剤師を目指している者も参加しました。体験した内容は、病室のアルコールによる掃除・ベットの整理・患者の体をおしぼりを用いて拭く・血圧の測定や点滴の補充の補助作業等です。また、参加した生徒全員が共通して答える感想では、常に笑顔で患者に接している看護師のすばらしさをあげていました。その他参加した生徒それぞれこの体験で得たことは大きく、医療に携わる仕事がしたいとさらに意思を強く固めたようでした。

看護師の方々が辛そうな患者さんに声をかけながら治療するところや、患者さんの健康を考えてチーム医療を行っている点がとても印象に残りました。患者さんの手当をしているとき、私は急に頭がくらつき、気分が悪くなりました。そんな私に対し、明るく声をかけながら作業を行う看護師さんがとても素晴らしく感じました。また、ナースステーションでは、医師も交えて患者のケアについて話をしていたところが印象に残り「患者1人を皆で支える医療」を実感しました。

※参加した生徒の感想(一部)

**1日HR** 9月26日本校医歯薬コースの1・2年生で1日ホームルームを実施しました。川崎市の東芝科学館では超伝導について、味の素の工場ではアミノ酸について学習し、さらに食品の製造過程を見学することができました。昼食は川崎大師近辺での自由行動中にとりました。普段は見られない工場などを見学でき、有意義な1日でした。

## 総合学習発表会

医歯薬コースでは総合学習の一環として、1,2年生合同のレポート発表会を実施しています。今回は10月11・20日に、3～4人一組で発表を行いました。発表にはプレゼンテーション用ソフトを活用し、動きのあるユーモアに富んだスライドに笑いの起こる場面も多く見受けられました。1年生のときに「医療」をテーマに調べており、今回は多岐にわたるユニークなテーマが多かったです。来年2月には、1年生が医療をテーマに2年生に対して研究発表を行います。今回の主な発表タイトル:死刑,カビの世界,肺の構造,人間進化論,整形,環境問題,恐竜など



## 生物の授業

9月19日午後に3年医歯薬コース生物選択者がウシガエルの解剖を行いました。2時間半にわたり、カエルの命に報いることのできるように、皆真剣に実験に取り組んでいました。将来理系に進むにあたりそれぞれ考えることがあったようです。

【生徒の感想より】実際に自分の手で解剖することで今まで以上に命の尊さが分かった。私は今まで命にかかわる仕事を目指していても、その命を失わせてしまう恐ろしさは分かっていなかった。だが今回の解剖で命を預かることの責任が少しは分かった。また、命の力強さというものにも触れることができた。特に心臓は摘出した後も長い間リンガー液の中で長時間動いていることがすごいと感じた。1つの命を犠牲にして得られた経験を忘れず、今後に生かしたいと思う。(Mさん)



カエルとヒトでは両生類、ほ乳類と動物の種類は違いますが、臓器などで様々な共通部分や生きるために適応している構造も観察できた。実習して骨の硬さ、筋肉の弾力性などを体感できた。今回はウシガエルを解剖したが、同様に小さな生物にも同じように、臓器があることを考えると生物のすごさを感じた。人はまだ何も無い状態から命を作り出すことができない。従って、これから先も実習の際には動物の命を犠牲にしなくてはならないと思う。実習に臨む際には生命に対する畏敬の念を忘れず、科学の進歩につなげていかなければならないと感じた。(Sくん)

## 大学受験

センター試験を3ヶ月後に控え、11月からは推薦入試も実施されるなど受験も本格化してきました。今回は国公立大学について、その入試方式と今年度の動向についてまとめてみました。

国公立大学受験にはAO入試、推薦入試、一般入試と大きく3つの選抜方式があります。AO入試では大学が求める学生像に如何にマッチしているかを、学力だけでなく、書類・面接・小論文等から判断する入試です。学力試験が課される大学も勿論ありますが、単に知識を問う内容ではなく思考力を試す出題が多く見受けられ、浪人生も受験可能な大学が多くなっています。

推薦試験には公募制と指定校制の2つがありますが、国公立大学はすべて公募制です。推薦なので学力試験が不要という印象もありますが、医歯薬学科では殆どがセンター試験または個別学力試験を課しています。AO入試と推薦入試併せて国公立大学入学定員全体の16%を占めており、今年度も弘前大(医)、金沢大(医)、九州歯大(歯)、鳥取大(医一生命)、岐阜薬科大(薬)、大阪市立大(看護)等で新規導入あるいは推薦からAOへの変更が実施されます。また、山形大(医)や九州歯大(歯)、金沢大(薬)では今年度よりセンター試験を課すようになった他、緊急医師確保対策等に基づく地域枠も相次いで導入されています。

これは地域医療貢献対策として、その殆どが県内出身者のみを受験対象としており、奨学金給付が受けられると共に卒業後県内医療施設にて数年間従事する義務が課されます。今年から筑波大(医)でも県内出身者を対象とした地域枠(5名)が実施されます。地域枠の定員は殆どが一般枠の定員に上乗せされますが、医師不足の深刻な地域では、一般枠の定員の一部を地域枠の定員に移行する大学も出てきています。旭川医科大(医)では後期定員を縮小して、AO入試の定員を増やすと共に北海道地域枠に変更、入学定員の約50%を地域限定枠としています。弘前大(医)でも全国推薦枠を廃止し、青森県および隣県出身者限定のAOに変更しています。その一方で、秋田大(医)や福島県立医科大(医)のように県外志望者対象の全国推薦枠を設けている大学や、群馬大(医)や金沢大(医)のように地域枠を奨学金給付対象希望枠として出身地を問わず、一般枠と併願可能な枠として実施している大学もあります。

一般入試には前期・中期・後期があり、募集定員を前期と後期に分ける大学と、前期のみ、中期のみの一括募集の大学とに別れます。前期・中期・後期共に出願はセンター試験後に一括して行い、前期試験合格手続き者は、中期・後期試験を受験しても合格とはなりません。従って第1志望の大学は前期に出願する必要があり、後期や中期試験では前期合格者や私立大合格者が受験しないため、志願倍率と受験倍率には大きな差が生じています。

さらに、推薦AO導入と併せて後期募集を廃止する大学も後を絶たず、今年度も東京医科歯科大(保健衛生)、金沢大(医・薬)、大阪市立大(医)、鳥取大(医一生命)、九州歯科大(歯)、長崎大(医)また、2010年度には大分大(医)や和歌山県立医科大(医)でも後期廃止が予定されています。その一方で、昨年後期復活をした筑波大(医)を始め、今年度も名古屋大(医)、青森県立保健大(理学)で後期が復活しています。2006年度から始まったセンター試験での理科3科目必須の動きも進んでおり、今年度は徳島大(医)、岡山大(医)がそれぞれ理科を3科目必須とし、計10大学(大阪大は2科目に再変更)となりました。また、来年度には長崎大(医)で3科目化が予定されています。

ここ数年、少子化による受験者数の減少や医師不足による定員の拡充、薬学部の6年制導入等様々な事由により募集方法に変更が見受けられます。国公立大学の後期廃止や医学科の地域枠導入、センター試験の理科3科目必須や推薦AO枠の拡大など、大学の動向には今後も十分注意する必要があります。

## 今後の予定

医歯薬コースの平成20年度11月、12月の行事予定です。

- 11月 1日(土) 進研模試(1,2年)
- 7日(金), 8日(土) 駿台ベネッセマーク模試(3年)
- 8日(土) 漢字検定
- 15日(土), 17日(月), 18日(火) MT(2年)
- 23日(日)～28日(金) パリ・ローマ修学旅行2年1,2,3組 22日, 29日代休
- 12月 2日(火)～4日(木) MT(1年)
- 22日(月) 終業式
- 24日(水)～26日(金), 1月5日(月)～7日(水) 冬期課外
- 1月 8日(木) 始業式